

厳しかった冬の寒さも和らぎ、春の暖かさが感じられる日が増えてきました。春めく日差しに誘われるように、草木もようやく冬の眠りから覚め、新たな生命を芽吹かせています。

今日、この佳き日に、福井県立三国高等学校を旅立たれる卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

先輩方にとって、この三国高校で過ごした三年間は長いものだったでしょうか、短いものだったでしょうか。今、三年間を振り返る先輩方の心の中には、きっと様々な思い出が駆け巡っていることでしょう。私たちが在校生も同じように、今、先輩方との思い出を胸の中によみがえらせています。

部活動では、四人の先輩が優しく接してくれたおかげで楽しい練習をすることができました。日々の練習を通じて、未熟な私にヨットの楽しさ、厳しさを教えてくれた先輩の姿。どんなに厳しい練習にも、いつも熱心に励んでいた先輩の姿。そんな先輩の姿は僕にとって憧れそのもので、「先輩のようになりたい」と強く思いました。私たち後輩を背負ってくれた姿はとても頼もしかったです。

先輩方と過ごした最後の一年は、例年になく苛酷なものでした。新型コロナウイルス感染症の影響で、二月の終わりに突然臨時休校が発表されました。「どうせすぐに学校は再開するだろう」と軽く考えていた私の予想に反して、コロナ感染の拡大は一向に収まりませんでした。休校は一週間、二週間、一ヶ月と延長されていき、県大会も国民体育大会もインターハイも、先輩方との大切な思い出になるはずだった行事やイベントのすべてが、次々に中止されていきました。

そんな中でも、先輩方は決して輝きを失うことはありませんでした。中止されたインターハイ予選に代わる大会では、最後まで勝利を目指し続ける諦めない姿を示してくれました。必ずしもいい結果を残せた部ばかりではなかったかもしれませんが。大会の規模や会場の雰囲気も決して満足のいくものではなかったでしょう。それでも、今まで積み上げてきた努力の成果を最大限に発揮していた先輩方の背中には、私たちに多くのことを教えてくれました。

私たち全員が楽しみにしていた学校祭にもコロナの影響がふりかかりました。準備期間が例年よりはるかに短く、学校祭当日の日程も大幅に短縮されました。制限だらけの学校祭が成功したのは、先輩方の熱意があったからこそです。コロナ禍の中でも全力で学校祭を楽しもうとする先輩方の気合は私たち後輩にも痛いくらいに伝わってきました。本番で見た一糸乱れぬ応援は、今でも私の目に焼きついています。

残念なことに、まだまだ新型コロナウイルスの感染に注意した生活は続きそうです。今日の卒業式でも、お世話になった先輩方を在校生全員で送り出すことさえできていません。これから三国高校の最上級生になる私たちは、きっとコロナ禍の三国高校を支えていくことになるのでしょう。大変な状況の中でも、挫けることなく学校生活を送った先輩方の誇りを後輩たちにも引き継いでいくことを誓います。

本日、この三国高校を旅立たれる先輩方。これからも笑ったり泣いたり、怒ったり喜んだり、多くの経験をされることと思います。誰も経験したことのないコロナ禍で様々なことに挑戦し、立ち向かった先輩方なら、どんな困難にぶつかってもきっと乗り越えることができます。多くの人に出会い、様々な経験をし、今以上に素晴らしい大人になっていくことを全校生徒を代表して願っています。これからも自分らしく将来へ羽ばたいていてください。

令和三年三月一日

在校生代表 松田 佳汰